

FLORA of KOCHI

No.49

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

探してみよう！ 春～夏編

ソラマメ属 (マメ科)

Vicia L.

ソラマメ属(マメ科)は、スズメノエンドウやカスマグサといった身近な種類から、ヨツバハギやシコクエビラフジなどの絶滅危惧種まで県内では9種が確認されています。そのほかに外来種では、ヨーロッパ原産のナヨクサフジが確認されています。ナヨクサフジは、ピロードクサフジの亜種で、茎や葉が無毛(またはまばらに伏した軟毛がある)であるという特徴が異なる点です。また、在来のクサフジと誤認されることもあります。花柄が花の斜め下側について、がくがうしろに突き出るという区別点があります。

石鎚山にはヨーロッパ原産のイブキノエンドウが帰化しており、今後県内の山地へも分布が拡大していく可能性があります。在来種という認識を持つ方も多い、ヤハズエンドウ(カラスノエンドウ)はヨーロッパ原産の外来種という説もあります。最近では県内の農地や路傍などでオオヤハズエンドウをみることがあります。オオヤハズエンドウはヨーロッパ原産といわれていますが、世界中に広がってしまったため、原産地がわからなくなっています。もともとの原産地がどこなのか、この決着をつけるのは形態形質のみでは難しいのかもしれない。

ソラマメ属植物は長い花期をもつものが多く、春から夏、さらに秋にかけて順番に開花していきます。花卉やがくをひとつひとつ丁寧に外して、それぞれを観察してみてください。



写真1 分解したヤハズエンドウの花

写真2 ヤハズエンドウの偶数羽状複葉

表 ソラマメ属の検索 ※葉は偶数羽状複葉で、頂小葉がない。小葉は鋸歯がない。

| 特徴 (検索キー) | | 開花期 | 学名・和名 | 備考 | | |
|--------------|----------------------------|---|--|------------------------------------|---|----------------|
| 托葉中央に大型の腺点あり | がく裂片はほぼ同長。一年～越年草。 | 3-6 | <i>V. sativa</i> subsp. <i>nigra</i> ヤハズエンドウ | ヨーロッパ原産 | | |
| | がく裂片は不同長で、背軸側の1個が最も長い。多年草。 | 5-7 | <i>V. sepium</i> イブキノエンドウ | ヨーロッパ原産 | | |
| 托葉に腺点なし | 花は小型で、(1-)2~7個。短毛は柱頭周辺のみ。 | 豆果は無毛、種子は3~6個。花は淡青紫色。がくの裂片の長さは不同で、筒部より短い。 | 3-5 | <i>V. tetrasperma</i> カスマグサ | | |
| | | 豆果は短毛、種子は1~2個。花は白紫色。がくの裂片の長さは同じで、筒部よりも長い。 | 2-5 | <i>V. hirsuta</i> スズメノエンドウ | | |
| | つる状・ほふく性の草本。葉柄はほとんどない。 | 小葉は4~10枚で、幅は15mm以上。 | 8-10 | <i>V. pseudo-orobus</i> オオバクサフジ | | |
| | | 小葉は10~24枚で、幅は12mm以下。 | 一年～越年草。旗弁の反り返った部分(舷部)は他の部分よりもいちじるしく短い。 | 5-6 | <i>V. villosa</i> subsp. <i>varia</i> ナヨクサフジ | ヨーロッパ原産 |
| | 花は大型で多数。花柱の上部全体に短毛がある。 | 多年草。舷部と他の部分はほぼ同長。 | 小葉は18~24枚。萼筒は最下の裂片と同長。 | 5-9 | <i>V. cracca</i> クサフジ | |
| | | 小葉は10~16枚。萼筒は最下の裂片より長い。 | 8-10 | <i>V. amoena</i> ツルフジバカマ | 高知県 RDB2022:VU | |
| | 直立・斜上する草本。葉柄あり。 | 小葉は2枚。 | 6-10 | <i>V. unijuga</i> ナンテンハギ | | |
| | | 小葉は4~12枚。 | 巻きひげはときに発達するが、ふつう小突起で終わる。 | 9-10 | <i>V. nipponica</i> ヨツバハギ | 高知県 RDB2022:CR |
| | 巻きひげは発達せず、葉軸の先端は針状突起で終わる。 | 5-10 | <i>V. venosa</i> subsp. <i>yamanakae</i> シコクエビラフジ | 高知県 RDB2022:VU | | |

【引用・参考文献】

小林史郎・牧雅之. 2009. ソラマメ属. In: 高知県・高知県牧野記念財団(編). 高知県植物誌 pp. 281-283. 高知県・高知県牧野記念財団. 高知県.
大橋広好. 2015. マメ科. In: 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(編). 改訂新版日本の野生植物 2:240-301. 平凡社. 東京



高知県の植物 ニュース

■ イワダレソウ 23年ぶりの再発見！

文：細川公子

昨年9月11日(日)9:30 大岐の浜駐車場集合で土佐清水市大岐での調査を実施しました。当初9月4日の予定だったのですが、降雨の予報のため延期しての開催に。早朝に高知を出発し、少し早く集合場所に到着しました。ところが、土砂降り。「この雨じゃあ、集まらんやろうねえ」と予想していたのに反し続々と車が。ちょっとやそつとの雨ではヘコまない面々です。11時には雨雲が通り抜ける予報だったので、時間待ちのため傘をさして大岐の海岸林を散策しました。予報通り雨が上がったので、午前中は水田などで穴埋め調査をして駐車場に戻り、海岸の展望所で海を眺めながら昼食を摂りました。

午後からは午前の続きで、私が以前から気になっていた場所へ。山際のその場所は一見蛇紋岩地の植生に似た貧栄養の疎林で、表土はあまり無く、ザラザラッと崩れる岩が現れています。斜面はヤブイバラなどの棘に邪魔されてあまり歩けなかったのですが、ワカサタケの珍しい緑色のキノコが観られました。と、すると、調査ボランティアの一人のYさんが、「これは何？」と尋ねてきました。みると法面下の小さな浅い側溝でススキの中に見慣れない植物が。「クマツヅラ科やね、新しい外来植物？、ワレモコウのような穂状花序にピンクがかかった花が少し残っていました。「イワダレソウじゃないですか」と前田さん。私自身も過去に本種を大岐の自生地で確認していましたから、確かに花はそう見えます！しかし、妙に間延びしているし、海岸ではなく環境が違うし、瞬間には答えが出せませんでした。



写真1-1 発見された時の花序の様子(2022年9月11日)

【引用文献】

高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会(編), 2022, 高知県レッドデータブック 2022 植物編, p. 97, 高知県.



写真1-2 山際の側溝に生える様子(2022年11月22日)

高知県におけるイワダレソウの記録は高知市と土佐清水市です [高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会(編), 2022]。1999年に大岐で確認されていた最後の自生地は、海岸に流れ込む小河川の岩上で、その後の豪雨により岩ごと流されて消滅してしまいました。私にはレッドデータブックの調査時から、本種を見つけるミッションを課せられていましたので、何度か一人で消滅した周辺を探し回ったのですが、見つけれずにいました。

本当にイワダレソウ?と疑いながら現地を見渡すと、以前の自生地から直線で100m、標高差10m程の近いところでした。たかが100m、されど100m。私は、「イワダレソウは海岸に生育」との固定観念があったために、今回発見の場所は、数回足を運んでいたのに見逃していました。よく考えてみると、イワダレソウは海岸を好むわけではなく、他の植物との競争の少ない海岸のような過酷な環境の中でのみ、生存を繋いできたのではないかと気づかされました。

約四半世紀を経てイワダレソウは再発見されました。チームの力はすごいです。今後もみんなで楽しく土佐清水市の調査を継続していきたいと思います。

イワダレソウは世界の熱帯から亜熱帯に広く分布しており、日本では本州(関東地方南部以西)から琉球まで見られます。多年草で、茎は長く地表をはい、節から根を出します。葉は対生で、上半分に粗い鋸歯があります。花期は7~10月、葉腋から出た葉よりも長い柄の先に円柱形の穂状花序を1個つけます。

グランドカバーとして導入され逸出しているヒメイワダレソウとは、植物体の高さ(ヒメイワ: 3~15cm、イワ: 20~60cm)、葉身の大きさや形(ヒメイワ: 楕円形または倒卵形、イワ: 倒卵形、へら状)などで区別できます。

【引用・参考文献】

遠藤泰彦. 2017. イワダレソウ属. In: 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(編). 改訂新版日本の野生植物5: 175-176. 平凡社. 東京.
Nataly O'Leary and Marca Ema Mulgura. 2011. A taxonomic revision of the genus Phyla (VERBENACEAE). Annals of the Missouri Botanical Garden 98: 578-596

【令和4(2022)年度の活動報告】

2年目となる今年度は、室戸市・芸西村・本山町・四万十町・四万十市・土佐清水市の6市町村で活動しました(写真 2-1)。個人や有志グループでの調査も含めると、今年度行われた調査は 482 回、のべ 1,271 名の方が参加し、2,605 点の標本が収集されました(表、図、2022 年 2 月末現在)。

これまでの累計で、各市町村で新たに分布が確認された種類の件数は合計 1,417 件となりました。新産地の発見以外にも、室戸市の放棄水田でサワオグルマの群生地が見つかったり、四万十町でサダソウの新たな生育地が見つかったりするなど、絶滅危惧種の情報が蓄積されました。

また、今年度は新たに 67 名の方が調査ボランティアに加入され、2月末現在 281 名が活動しています。

【調査活動のレベルアップ】

調査ボランティアの方々がレベルアップを図れるよう、今年度は野外研修会や植物分類学セミナーを 9 回開催しました。新たな取り組みとして、遠方にお住まいの方や都合がつかない方にも受講していただけるよう、オンラインでの講座をはじめました(写真 2-2)。初回となった分類学セミナー「ヤナギの仲間」講座では画面表示の不備があり、大変ご不便



写真 2-1 調査の様子(四万十町 2022年 11 月 14 日)

をおかけしました。今後は改善し、オンラインに対応した会も増やしてまいります。

また、これまで事務局が実施してきた重点調査市町村での調査では、標本の採集の仕方や必要な情報のとり方、調査票の書き方といった調査方法を習得することに重点を置いてきました。そのため、調査に参加されているほとんどの方は調査方法を身につけてこられているようです。そこで、次の段階として、名前がわからない植物を図鑑を使って調べる方法や調査開始地点から確認した種類を全てメモしていく全種調査などを実施していこうと考えています。

表 重点調査市町村の採集標本点数

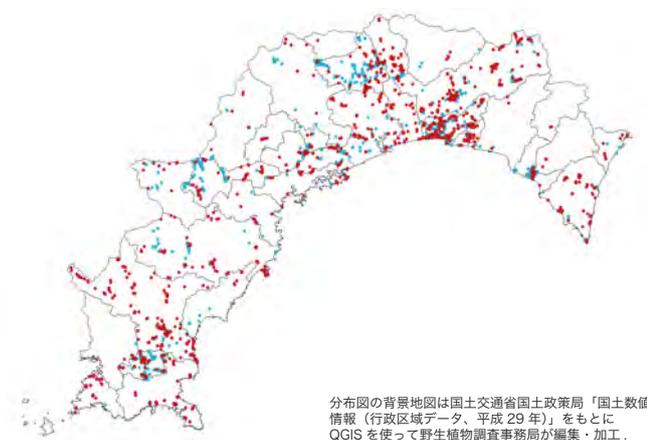
| 年度 | 重点調査市町村 | 採集種類数(新産) |
|----------------|---------|------------|
| 令和 4 (2022) 年度 | 室戸市 | 128(33) |
| | 安芸郡芸西村 | 127(97) |
| | 長岡郡本山町 | 106(58) |
| | 高岡郡四万十町 | 215(33) |
| | 四万十市 | 236(88) |
| | 土佐清水市 | 89(45) |
| 令和 3 (2021) 年度 | 安芸郡田野町 | 214(176) |
| | 香南市 | 365(84) |
| | 土佐郡土佐町 | 258(165) |
| | 土佐市 | 255(165) |
| その他の市町村 | | 1,369(371) |



写真 2-2 分類学セミナー(ヤナギの仲間)(2023 年 2 月 18 日)

【令和5(2023)年度の計画】

来年度は、北川村・大豊町・大川村・日高村・佐川町・黒潮町・大月町の7市町村を重点的に調査します。また、全市町村で独自に調査をしてくださる方やグループを募集しています。調査して下さる方には希望の市町村のチェックリストと調査票などの調査資料をお送りしますので事務局までご連絡ください。講座についてはこれまで通り、野外研修会や植物分類学セミナーを開催します(4面参照)。調査活動や研修会について、ご希望やご意見がございましたら、事務局までご連絡ください。



分布図の背景地図は国土交通省国土政策局「国土数値情報(行政区域データ、平成 29 年)」をもとに QGIS を使って野生植物調査事務局が編集・加工。

図 標本採集地点

●：令和 3(2021)年度 ●：令和 4(2022)年度

■ 令和5(2023)年度上半期 分類学セミナー・研修会などのお知らせ

上半期の分類学セミナー・研修会を下記のとおり開催します。野外研修会では実際に生えている植物を観察しながら見分けるポイントが学べます。参加ご希望の方は必ず事前にお申込みください。

ボランティアガイダンス (会場・オンライン開催)

4月15日(土) 10:00～11:30

場所：牧野富太郎記念館本館 映像ホール

内容：分布調査の説明、植物園の活動紹介、安全講習。

対象：令和元(2019)年度以降に調査ボランティアに登録された方

※ご希望の方はガイダンス終了後手動式に新しく改修された標本庫を見学いただけます(12:00まで)。

野外研修会

水草の見分け方

7月29日(土) 9:30～11:30

講師：山ノ内 崇志(福島大学共生システム理工学類特任助教)

場所：高知市池周辺

定員：10名(先着順)

内容：水路や池に生育する水草の特性と見分け方を観察しながら学びます。

*調査および研修会では、お申込み後、集合場所などの詳細をご案内します。*ボランティア登録者本人は窓口でボランティア登録証をご提示いただくと無料で入園できます。

<セミナー・研修会・調査などに参加される際の注意事項>

- セミナーや研修会中に写真を撮影します。撮影した画像は牧野植物園の年報及び広報媒体等に掲載させていただくことがあります。ご了承ください。
- 令和5年3月13日よりマスクの着用は個人の裁量に委ねられていますが、基本的な感染防止対策の徹底をお願いします。

【申込先】

高知県立牧野植物園 野生植物分布調査事務局

メール：floraofkochi@makino.or.jp

電話番号：088-882-2723(事務局直通) ※土日祝日を除く 9:00-17:00

FAX番号：088-882-8635(代表)

分類学セミナー (会場・オンライン開催)

シダ植物 (初級～中級)

6月3日(土) 10:00～12:00

講師：堀 清鷹(牧野植物園研究員)

場所：牧野富太郎記念館本館 映像ホール 定員：50名(先着順)

水生植物 (初級～中級)

7月29日(土) 13:30～15:30

講師：山ノ内 崇志(福島大学共生システム理工学類特任助教)

場所：牧野富太郎記念館本館 映像ホール 定員：50名(先着順)

ご来園の際のご注意

今年4月より朝ドラが放送され、5月下旬には植物研究交流センターがオープンします。五台山は一方通行のため、渋滞が発生すると長時間動かなくなったり、駐車場に入れず下山しなければならなくなったりします。特に土日は混雑が予想されますので、高知新港から出ている無料シャトルバスをご利用ください(令和5年5月14日(日)まで毎日運行)。また、高知駅やはりまや橋からはMY遊バスでもお越しいただけます(ただし乗車券の購入が必要)。



牧野植物園 シャトルバス

検索

特別講演

発見!日本のHepaticaのルーツ。トサミスミソウ

4月15日(土) 13:30～15:00

講師：大野 好弘(園芸研究家、World Hepatica Laboratory 代表)

場所：牧野富太郎記念館本館 映像ホール

定員：50名(事前申込必要、先着順)

内容：高知県で発見されたミスミソウ属の新種。詳しく解説いただきます。



■ 事務局からの連絡事項

- ① 牧野植物園ホームページに野生植物分布調査のページができました。調査マニュアルや調査票、調査報告書がダウンロードできます。
- ② 野生植物分布調査で独自に調査に行かれる際は、事前に事務局までご連絡ください。
- ③ 国有林に野生植物分布調査で入林するには、2週間前までに事務局にご連絡ください。
- ④ 令和5年度も外来植物防除活動を実施します。詳しくは「外来植物防除活動」のチラシをご覧ください。

■ 植物に関する問い合わせ

毎週火曜日(休日の場合はその翌日)に植物研究課の職員が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。写真では同定が難しい種類がありますので、押し葉状態(仮押しでも可)にするか、新鮮なうちにお持ちください。

植物に関する全般の問い合わせは、月・水・金の16時から17時まで受付しています(Tel:088-882-2723)。

■ 編集後記

本号では、イワダレソウ再発見について細川公子氏にご執筆いただきました。ありがとうございました。皆様からの原稿をお待ちしております。